



2019. 1. 1

1月 ちとせだより

幼保連携型認定こども園
神戸 YMCA ちとせ幼稚園

あけましておめでとうございます。

年末年始はどのように過ごされましたでしょうか。

年末は「新年に間に合うように」と、掃除やおせちの支度、帰省や、もしかしたら晴れ着の準備で大変だったかもしれません。自分のこれまでの年末を思い出してみても、忙しくしている母の（家庭を持ってからは妻の）周りで不規則に命じられる役割や仕事にあたふたしているのがいつもの年末でした。それはまるで「お正月に間に合わなかったら大変なことが起こる」かのようなようでした。確かに昔は、お正月は店も何もかも全部お休みで、準備しておかないと大変なことになったと思います。

年末が慌ただしい分、正月はより一層、穏やかに感じる、ということもあると思います。それも「日本の文化」です。義父母と一緒に初詣に行った時「庸秀さん、参拝していいの？」と、心配そうに聞かれたことがあります。「多分、大丈夫です」と応えたのですが、何が「大丈夫」で、どうして「多分」なのか、本当に適当な返事だったなと思います。

神社には八百万の神の1体が祀られていて、神にはそれぞれ得意分野があって…。クリスチャンの心にある神とイエス・キリストとは違いますが、私の中でキリスト教信仰と相反している訳ではないのです。神社に行けば神妙な気持ちになりますし、素晴らしい自然の風景に神聖なものを感じることも勿論あります。そういった文化、環境で育ってきたからで、それを幸せなことだと思っています。信仰は、そのような全てを土台にして、自分で選び取った生き方です。

今年は年号が変わりますし、社会の変化は大きく速くなっているのを感じます。そしてこれから、社会は何が変わり、何が変わらずに在り続けるのでしょうか。そのような社会を担うことになる子どもたちには、何が真で善なのかを自分で考え、決めてゆくことが求められるようになることは間違いありません。しっかりした人間としての土台が、子どもたちひとり一人の心に備わりますように。

年主題 『イエスさまとともに生きる～愛の交わりの中で～』

<年主題聖句> 「愛する者たち、
神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、
わたしたちも互いに愛し合うべきです。」
(ヨハネの手紙Ⅰ 4章11節)

1月主題 『なかまと ひびきあって』

<聖句> 「求めなさい。そうすれば、与えられる。」
(マタイによる福音書7章7節)